

第 5 回 Region 3 ARDF 選手権大会

(2003 年 11 月 28 日 ~ 12 月 3 日, オーストラリア連邦バララット)

レポート : JARL 選手団団長 JA8ATG 原 恒夫

J A R L 選手団が好成績!!

2003 年 11 月 28 日から 12 月 3 日までオーストラリアのバララットで開催された Region 3 ARDF 選手権大会に JARL 選手団 25 人が参加しました。大会には JARL 選手団をはじめ、オーストラリア、韓国、中国、カザフスタン、アメリカの各国選手が参加しました。

選手村は、大学の寮

11 月 27 日の朝、メルボルン空港に Region 3 の ARDF 委員長 JA1HQQ 有坂氏、JARL チーム団長の JA8ATG 原氏、他 25 名と同じく到着していた韓国と中国チームは、実行委員会の用意したバスで約 100km 離れたバララット市まで向かいました。広野の車窓を眺めながら移動し、約 2 時間後にバララット市のバララット大学に到着しました。すぐ学生寮が宿舎に割り当てられました。質素ながら清潔な学生寮は個室になっていました。10 時間の旅の疲れのため多くの選手は、しばしの休息を取りました。

夕方から選手受付が始まり、ID カードの作成、参加種目の確認等が行われました。

食事は、大学のカフェテリアが使われました。この大学のキャンパスは広大で、ここで ARDF 競技が出来るのではと思えるほどです。

翌日の 28 日は、午前中は受信機のテストが行われ、午後は開会式が盛大に開催されました。

また、体慣らしのためにオリエンテーリングが行われました。

夕方から、この大会の記念局 VIBARDF が開局、私たちも運用させてもらいました。残念ながらコンディションが悪く、多くの局とは QSO 出来ませんでした。コールサインのサフィックスが 4 文字のため、なんどもコールサインを確認され交信に手間取りました。

チームリーダー会議を毎夜開催

毎日チームリーダー会議が 21 時から開催され、有坂氏、原、選手を代表して JROAIJ 新井氏が参加しました。勿論言葉は英語で、参加した各国代表は、一言も聞き逃すまいと緊張していました。

「ここは Region 3 ですが、競技のルールは Region 3 でやります。」という現地実行委員会の発表に、みんなが苦笑しましたが現地実行委員会の提案のとおり進められることになりました。

「競技場内には、アニマルトラップという大きな穴が何カ所もあります。直

径 1 メートル程度，深さは 15 メートルもあります。ネズミなどの小動物を落とすためですが，皆さんは落ちないで下さい。それから，蛇が出ますが絶対にさわらないで逃げて下さい。」

深い穴と蛇に驚かされて，出席者一同顔を見合わせてしまいました。

144MHz 競技

30 日の朝，バスで 30 分離れたスタート地点に移動しました。小さな小学校を借り切ったようで，教室や作業室が選手控え室になっていました。スタートの 1 時間ほど前に到着して，受信機預かりなど準備が進められました。ところが間もなく，突然スコールがやって来ました。英語で「シャワー」と言っていました。ところが土砂降りになりました。しかし，この雨は 20 分ほどで止み，また青空が戻って来ました。

10 時，いよいよ競技がスタートしました。コースは雑木林の中に設定されておりましたが，下草がほとんどなく，踏みつけ道でないところを走ってもそれほど問題がないようにみえました。雨が降ったばかりというのに地面はすっかり乾燥しており，滑りやすいように見えました。

次々とスタートする皆さんを有坂氏と原は声援をおくり，約 1 時間後にゴール地点へと向かいました。

ゴールに着くと，1 時間を少し過ぎたばかりというのにもう地元選手がゴールしていました。先ほどのスコールが信じられないような強い日差しになりました。JARL の選手も次々ゴールして来ました。TX とゴールは，指に付けたメモリーで確認され，10 秒足らずで，パソコンで処理され選手の走った軌跡や時間がプリントアウトされ選手に渡されています。実に合理的なシステムが構築されていて，記録に関するトラブルは皆無になっていました。

「穴は，ありましたか？」「蛇は出ましたか？」などの私たち応援団の質問に，「穴は，1m 近い土盛りがしてあって，すぐ分かるようになっていました。蛇には会いませんでした。」という選手の皆さんの報告に安心しました。

JARL チームの入賞が次々と掲示され，日本の選手の力がどんどんついてきていることがわかりました。午後 2 時近くに選手全員がゴールして，144MHz の競技は終了しました。

夕方には，実行委員会と各国リーダーとの会議が開催されましたが，クレームは付かず，発表された成績が承認されました。この日の夜 JARL チームは，夜遅くまで「作戦会議」が続きました。

3.5MHz 競技

12 月 1 日は，休養日として市内観光が企画されていました。バララットの動物園でローカルの動物の見学，昼食のバーベキュー，そして，午後はバララットの 100 年ほど前の主立った産業を紹介したテーマパークへ向かいました。ゴールドラッシュにわいた当時の産業がそのまま紹介されていました。圧巻は実働させているスチームエンジンで，ホイルの大きさも入れると 3m ほどの大きなエンジンでした。そのスチームエンジンを動力として，ベルトで伝えられた力はたくさんの機械を動かしていました。スチームエンジンがこんなに静かで振動もなく力強く動いていることに見学したみんなが感動しました。これが

産業革命の源とだったのでしょ。

2日は、朝7時にスタート地点に移動、9時に競技が開始されました。競技場は、やはり雑木林の中で下草が短いので、かなり見通しがききそうです。

ここオーストラリアのARDF競技の審判団もかなり年配の方が多く、また、夫婦の方が仲良く仕事をされていたことが印象的でした。

スタート地点で約1時間応援して、ゴール地点へ移動しました。ゴールは、大きな高校のグラウンドで、休み時間に生徒さんが珍しそうに見学していました。

次々とゴールする選手に拍手をおくりながら、随時発表される成績掲示板を注目していました。3.5MHzもJARLチームは、個人も団体も抜群の強さです。

幸い3.5MHz競技も怪我にもなく無事終了しました。

午後3時過ぎ、審判会議でもクレームもなく成績が決定しました。

表彰式とパーティー

バララット大学の講堂で、表彰式が行われました。JARL派遣選手団は素晴らしい成績で、多数のメダルを持ち帰る事が出来ました。

パーティーでは、地元の音楽グループの演奏やカウボーイの鞭使いのデモンストレーション、選手同志のプレゼントの交換など楽しい一時を過ごしました。

すべてが質素な大会でしたが、地元の実行委員会の献身的なお世話によって、素晴らしい大会が運営されました。ここに敬意と感謝を表したと思います。

第5回 Region ARDF 選手権大会フォトダイジェスト



スタートのようす



ゴールのようす



表彰式



日本選手団、全員集合！